

黒崎中学校 図書館だより No.1

令和6年4月26日

新学期が始まって、まもなく1か月が経ちます。皆さん、新しい学年、新しい学校には慣れましたか？

学校図書館司書の楠 雅之(くすのき まさゆき)です。皆さんの学校生活の中で、日々の読書や授業での調べ学習など、本に関わる活動のお手伝いをします。どうぞよろしくお願いいたします。

新入生の図書館オリエンテーションが終わり、ようやく全校生徒が図書館を利用できるようになりました。昼休みや放課後、皆さんが本に親しんでいる姿を見ていると嬉しくなります。

黒崎中学校に来たばかりで、まだ慣れないことも多いですが、図書館や本を好きでいてくれる生徒の皆さんとお話しをするのが、本当に楽しいです。より多くの本に触れて楽しんでもらえる、居心地のよい場所になるよう努めます。ぜひ図書館を利用してくださいね。



千の扉あけて

第1章

どの本にもある、表紙を開いて最初に現れるタイトルの書かれたページ。決まった名前があるのを知っていますか？ 答えは「扉(とびら)」。本を開くことは、いろんな世界、いろんな物語、いろんな知識へとつながる扉をあけること。そんなふうに思うと、すべての本に扉が用意されているというのが、とても素敵なおことに思えてきます。

図書館だよりでは、これから皆さんを、無数にある扉のひとつへご案内します。それをあけるかどうかは、あなた次第。ですが一冊の本の世界を旅したとき、きっとそれ以前とは変わっている自分に気づくでしょう。

今回の「扉」は…

『はてしない物語』

ミヒャエル・エンデ 作
上田真而子・佐藤真理子 訳
岩崎書店



ドイツの作家エンデの、傑作ファンタジー小説。この本を最初に選んだのは、まさしく「読む人が本の世界に入り込んでしまう物語」だからです。

少年バスチアンは悪ガキたちに追われ、古本屋に逃げ込みます。そこで、どうしても気になった一冊の本『はてしない物語』を無断で借りてきてしまい(←いけません)、夢中で読みふけるうちに、今読んでいるこの本が物語の中に登場していることに気づき、呼びかけに応え本の世界へ。

「虚無」に侵された空想の国ファンタジーエンの救い主として英雄になっていくバスチアンと、もう一人の主人公アトレーユの活躍。現実世界の記憶を少しずつ忘れてしまうバスチアンは、本当の自分を思い出し、元の世界に帰れるでしょうか。

このコーナーのタイトルにある「千の扉」は、この物語に出てくる言葉です。迷宮にとらわれたバスチアンは、目の前に現れる扉を一つ一つ選ぶことで「ほんとうのぞみ」へと導かれます。無数の選択の連続でできている、私たちの人生のようですね。子ども向けの本として書かれていますが、中学生の皆さんが読んででも十分に面白いし、大人もこの本を大切に何度も読み返している人もいます(私もそうです)。ぜひ読んでみてくださいね。

それでは、また次の扉でお会いしましょう！

黒崎中学校 図書館の使い方

★利用時間

月・火・水・木曜日 → 16:30まで

金曜日 → 昼休みのみ

※ 貸出は昼休みと放課後を利用しましょう。



★ 貸出

一人2冊まで 1週間（金曜日は3冊借りられます!）

★本の借り方・返し方

◎ 借り方

- ① 貸出カードと借りたい本をカウンターに持って来ます。
- ② バーコードをなぞってもらったら、カードを元の場所に戻します。

※ 図書館から本を持ち出すときは、必ず貸出処理をしてください!

◎ 返し方

- ① 返したい本をカウンターに持って来ます。（貸出カードは不要です。）
- ② バーコードをなぞってもらったら、本を棚に戻します。

※ 必ずバーコードをなぞってもらってから、棚に戻してください!

※ 閉館中、本を返したい人は、図書館前のポストに本を入れましょう。



図書館のルール



- 静かに利用する
- 手続きを行ってから本を持ち出す
- 本を大切に扱う
- 返却期限を守る
- 後始末をきちんと行う
- 図書館に入る前に手を洗う

• 探している本が見つからないとき、次に何を読もうか迷っているとき、気軽に司書に声をかけてください。いつでも大歓迎です。
• 「私はこんな本が好き」「図書館にこの本があったらいいな」など教えてくれたら、とても嬉しいです。新しい本を選ぶときの参考にします。いろいろなお話を聴かせてくださいね。（ただし館内では小さな声で…）。

あなたの「好きなもの」を教えてください。もちろん本でもいいし、それ以外の映画やアニメ、動物、食べ物など、どんなものでも良いです。自由に書いて、司書に手渡すか返却ポストに入れてください。（自由回答です）

年 組 名前

（名前を書いたら嬉しいけれど、書かなくてもOKです）